

不易流行 不易はタクシー、流行はRS 無形・VR活用を！南米最新交通事情

大岡 理人氏（南タクシー社長） 第5/12回

地球沸騰化で熱帯氷河が縮小している、ここ数十年で急激に。ケニア山、アンデス山脈、世界各地で。私は15年前にペルーのワスカランでスイスのような美しい氷河山脈を見た。いまでも見られるだろうか。ボリビアのポーポ湖（琵琶湖1.5倍）も消えてしまった。鏡面映えで人気のウユニ塩湖などでは温暖化の影響だけでなく、湖底のリチウム採掘という人的影響も受けている。原住民の目先にニンジンぶら下げ、リヤマや野鳥などの生態系を破壊。リチウムは脱炭素化社会に必要とされる製品、バッテリーとしてスマホ、EVやロボットなどに使う。環境破壊は必要悪だろうか？いや、そうではあるまい。財力や技術力、国によっては武力で何をしても良い——という世界を変えなければ、加速度的に進む人類滅亡時間の時計を止めることはできない。パリ協定離脱、化石燃料の採掘を進めるといふ米国前大統領をまた選ぶようなことがあれば、今後何十年も酷暑や水不足に悩み苦しむ運命となるだろう。

セーナ川で開会式を行い、既存施設をフル活用するパリ五輪は好例だ。有形物質、大きな建造物ほど大量の温室効果ガスを排出する。大阪・関西万博のプロデューサーの1人である落合陽一氏のようなバーチャル技術を駆使する人たちが集まれば、低コストで最先端の万博が可能だし、そうあるべきだ。これまでのような、作っても壊してしまうハコ物の物理的集約事業は同万博が最後となろう。不易流行、いくら世の中が変化しても変わらないもの、変えてはいけないものは何か。自然と平安である。世の中の変化とともに変わっていくものは何か、人々の服装や街の表情、交通・通信環境などである。タクシーは不易、ライドシェアは流行。低効率の個別輸送渋滞における温室効果ガス排出及び損失時間、安心安全の交通界レガシーの崩壊、即ち「不変であるべき自然と平安の瓦解をもたらすのがRS」である。

南米ではRS含む自家用車での通勤、移動が非常に多い。2023年の『トムトム・トラフィック・インデックス』によるとラッシュ時に最も渋滞する都市ランキングには2位リマ、3位メキシコシティといった都市が並ぶ。渋滞による損失時間は1日40分以上、整備不良や老

朽車両が多く、まき散らす黒煙の量は計り知れない。南米全般に言えることは自転車が非常に少ない。クルマの運転が荒く事故に遭えば大けがをする（私の

リマ市内運転経験から「ここで運転できたら世界どこでも運転できる」と絶対に言える）、自転車道の整備が未発達、路上駐輪したら直ぐに盗まれるなどの理由がある。自転車文化が無いと言ってもよい。ところが、昨今の中南米では自転車やキックボードの利用が急激に増えている。個人で購入またはレンタル、Luupのようなシェアリング方式もある。スマホひとつで気軽に利用できるので若者の間で一気に広まった。

ペルーは20種以上の気候を持つ国だが、リマ市では雨がほとんど降らない。道も平坦なのでこれらの利用に適している。冒頭にアンデス氷河氷解のことを書いたが、リマ県民にとっては水源の死活問題である。またリマの話だが20年前から自転車道の拡張を始めて現在総延長は350キロ、今年から毎年50キロを目標に延長するという。他の中南米国でも急ピッチで自転車道を整備、延長しているようだ。これは車道混在の路面標示整備ではない。自転車専用道である。都市部では構造的に分離型の自転車専用道の確保は難しく路面標示が多い。標示場所に停止車両があると、自転車やキックボードは後方を振り返りながらの走行となり、非常に危ない。大阪で時々見かける、タクシーの自転車道路面標示上の乗降停止、注意してほしい。

さて、キックボードに乗りたくなってきた。大阪城郭一周でもしようか。Luupアプリにクレジットカードと免許証登録、11個の道交法質問に答えた。1分15円。3時間や12時間乗り放題料金もある。初回60分無料にするから、すぐに乗ってくれといわんばかり。貸出ポートと返却ポートが異なってもよい———ということは、在庫調整の回送業務をする人がいるわけか。ブログのような文調になってきた。お客様としてNRS乗車体験など当社ブログに**最近投稿**(**下QRコード**)したのでご興味あればぜひ。

エコでエシカルな個人移動体はやはり若者向けだ。自動車王国、クルマ社会の中部・東海でさえ「CentX」というMaaSアプリが普及している。関西MaaSその全容は公開されているが、皆さんのスマホにそのアプリが入るのはいつだろうか。

